

山宗株式会社の事業適応計画のポイント

令和5年8月28日

- 脱炭素社会化に資する様々な課題解決を重要な経営課題と捉え、生分解性プラスチックや再生可能な有機資源からつくられるバイオプラスチックなど環境配慮製品の提供や省エネ活動等、環境負荷低減の活動を実施している。
- 本計画では、家電関連製品や自動車部品を製造する茨城・大分工場に自家消費型の太陽光発電設備を導入し、当該設備による電力を自社内で使用することで、外部からの電力購入を抑え、炭素生産性を向上させることを目標とする。

<事業適応計画の概要>

1. 事業適応計画の実施期間

（茨城工場）令和5年10月 ～ 令和7年9月

（大分工場）令和5年9月 ～ 令和7年9月

2. 生産性向上目標

（茨城工場）炭素生産性を53.1%向上させる。

（大分工場）炭素生産性を48.8%向上させる。

3. 前向きな取り組みの内容

茨城・大分工場それぞれに太陽光発電設備を導入し、当該設備により電力を自社内で使用し、蓄電池においては事務所の電力を賄うことにより、外部からの電力購入を抑え、CO2排出量を削減*する。

*削減排出予想量（茨城:138t-CO2/年、大分:126t-CO2/年）

4. 支援措置

税制措置（カーボンニュートラルに向けた投資促進税制）

<取組の内容イメージ>

【茨城工場】



【大分工場】

